

法のやうになれるは、上をまなべばなり。詞花集の比よりと聞ゆ。異國には、齊の明帝のことのほかに物をいまふ性にて、人の名をかへしたる事有。それは唐音にて、ひゞきのかよへるをにくめばさもあるべし。此國にては、和訓にてよむなれば、かゝるさまたげもなし。唯占術の一つになりて、人のまごへるなり。韻鏡といふ物は、唐音を正すべき爲に作れる書なるを、うらかたの書のやうに覺ゆるは、おろがなる事のいたれるなり。韻鏡にのせたる字は、一音なる字多き中にて、近く聞なれたる字を一つ出せる事なれば、その字の義にてのみ吉凶をさだむべきやうなし。一音の字多き内には、あしき義の字も有べけれども、とにかくに書面に見えたる字の義をのみこれるは、易の辭などやうに心得たるにや。此故に今の世には、とほり字の同じくて、うまれしやうの同じき人は、皆同じ名のりなり。名乗のおこなはれぬ世なればこそ、かくにてもまがひなけれ。昔のごとく姓と名乗にて世におこなはゝ、一萬の人のあつまりたる都にては、同名の人の四百も五百もあるべきなり。

〔斥非〕近時韻鏡之書、盛行于世、則有反切人名之事。其法於人之二名者、以上字爲切母、下字爲韻。從韻鏡歸成一字、因視其字美惡、美則已、惡則改其名、以爲所歸之美惡、而終身之吉凶禍福係焉。此事不知起於何時、始於何人、毋論。中國雖我大東、自古迨吾國初、實所未有也。蓋自寬永間以來也。在今日則自王公以下至庶人、未有不反切其名者也。已不學其事、則必仰人、於是問諸能者、精粓從之、諸知反音者、因言其吉凶。猶卜師也。故儒者若浮屠中、有業此以致富者焉。夫中國人多一名、固無以反切。此方人必二名、雖有一名者、則千萬人中一人耳、故可以反切好事者、因制之法、以欺愚俗也。此事若巫祝陰陽之徒爲之、則固其所也、不足責也。苟爲儒而讀聖人之書、聞中夏之道者、豈宜不知其非哉、如不知其非、是至愚也。知其非而爲之、是誑人也。至愚可羞也、誑人可惡也。有一於此、不可以爲儒矣、噫世之反切人名者、亦何知韻鏡之所以爲韻鏡乎。